



稻付 嘉明

INATSUKI Yoshiaki

カワソーテクセル
社長

社員の価値観を揺さぶれ 多様性をキーワードに、関西の発展へ



現在大阪に本社を置く弊社は、1877(明治10)年に愛知県瀬戸市で洋食器製造業の企業として創業しました。やがて食器や陶磁器と原材料が同じである電力用の碍子(がいし)の生産に着手し、それに関連した架線金物や電線ヒューズなども作るようになりました。これら電力系資機材は長らく力を入れている事業であり、現在複数の大手電力会社から認定をいただいている。

一方で、1970年代よりセラミックス製品の技術開発にも取り組み、90年代後半からはセラミックスと金属を接合させる技術や金属と金属を接合させる技術をベースに、半導体の製造装置、さらには半導体そのものを冷却する冷却用プレートであるヒートシンクの製造に乗り出しました。これら半導体関連製品はドイツなど海外にも販路を広げています。現在の事業構成は、電力会社関連が約6割、半導体関連などその他が約4割となっています。

関経連とのかかわりは、2012年12月のメンバーシップ部会でのスーパーコンピュータ「京」の視察にさかのぼります。弊社がヒートシンクを製造していることもあり、水を使って冷却していると聞いていた「京」がどのようなものか見に行くいい機会だなと考え、参加しました。そして14年の秋ごろ、関経連が後援する留学生採用のイベントに弊社が参加し、後日「そのご縁で留学生を採用できた」という話をしたところ、事例発表のご依頼があり、そのようなこともあるってか、メンバーシップ部会の副部会長、そしてグローバル人材育成・活用委員会の副委員長をというお話を頂戴しました。委員会の改組により、2021年度からは労働政策委員会およびダイバーシティ&インクルージョン(D&I)専門委員会の副委員長を務めさせていただいている。

初めは中小企業である弊社が、どのような形で関経連のお役に立てるだろうかと思っていましたが、今は、企業の、そして私自身の経験をふまえた視点や気づきを発信し、提案していくことが役割ではないかと思っています。

D&I専門委員会では、まずは女性活躍から取り組みを進めていますが、外国人の活躍を支援することも大切なミッションの一つであると認識しています。

弊社では、韓国企業との取引を機に、15年に初の留学生採用で韓国人女性を採用しました。多様性を取り入れることで、社内の活性化につながればと思っての挑戦でしたが、これが成功でした。特に日本人の女性社員には大いに刺激になったようです。営業職をこなし、自分の意見をしっかり表明する彼女の姿は、「女性だってやれる、やってよいのだ」と、他の女性社員の心のストッパーを外すきっかけになったと感じています。

異なる価値観に触れるだけで周囲の社員は活気づきます。以来、韓国、台湾、中国からの留学生を積極的に採用しています。私は、彼らが一定期間勤めた後に母国に帰ってもいいと考えています。在職期間中に他の社員に刺激を与えてくれるので、それだけでも十分会社にもたらすものがあるからです。女性活躍推進に課題を感じておられる企業があれば、女性留学生の採用を突破口に社員の価値観を揺さぶってみるのも一策ではないでしょうか。

福岡県出身の私が、関西を一言で表すなら「ケイオス(混沌)」がピッタリだと思います。関西には、混沌のなかからさまざまな魅力ある価値を生み出し続けるパワーがあるからです。「関西経済は勢いがある」と評価されるよう、盛り上げていきたいと思っています。
(談)